

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

|               |   |     |             |         |
|---------------|---|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | ロボットプロジェクト入門2(Introduction to Robot Project 2)  |     | 授業コード       | N170251 |
| 担当教員名         | 稲川 直裕、河邊 博康、川崎 敏之、福島 学、岡崎 覚万、筑紫 彰太、市田 秀樹  |     | 科目ナンバリングコード |         |
| 配当学年          | 1   | 開講期 | 後期          |         |
| 必修・選択区分       | 選択<br>※必ず学生便欄を確認する事。  | 単位数 | 選択          |         |
| 履修上の注意または履修条件 | 通常の授業時間以外に地域での活動日が設定されています。日程の確認をお願いいたします。  |     |             |         |
| 受講心得          | グループワークが中心となります。チームの目標に向かって主体的に活動する事が期待されます。フィールドワークでは団体行動が基本です。教員・現地指導員の指示に必ず従ってください。地域の皆さんは、この実習にあたって大変な負担を負っています。皆さんのために、いろいろして下さる地域の皆さんに感謝しながら受講してください。 |     |             |         |
| 教科書           | なし  |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | 授業の内容に関する資料は、各演習毎に配布しますので参照してください。  |     |             |         |
| 関連科目          | ロボットプロジェクト入門1   |     |             |         |

|       |   |
|-------|---|
| 授業の目的 | <p>これからの社会は、様々な問題が複雑にからみあい、予測困難な時代となっていきます。そのような社会の中で何が必要とされているか、それに対してどのような取り組みを行っていけば良いのか、ということを中心に考えて行く必要があります。</p> <p>本授業では、地域の実態を現場見学や体験学習・ワークショップを通して感じ、地域が直面している課題について考えます。</p> <p>そして、その課題に対して、ものづくりを通して「何ができるのか」ということを、本授業を通して考え抜きます。</p>  |
| 授業の概要 | <p>地域の現状についての話を聞き、地域での体験学習を通して感じたことをまとめ、今後の地域社会における課題についてグループディスカッションを行います。</p> <p>また、グループディスカッションをとおして見つけた課題にたいして、それを解決するためのアイデアを考え、プロトタイピングを通して形にします。</p> <p>本授業はグループワークが基本となります。グループ活動の中では、自分の役割を考え、また周囲をサポートすることで、チームの目標に向かって主体的に活動する事が期待されます。</p> <p>課題内容としては、プロトタイプ(動作するもの)、プレゼン資料、製作物のプロモーションビデオなどである。</p> |

| ○授業計画   |                             |
|---|-----------------------------|
| 学修内容  | 学修課題(予習・復習)                 |
| <b>第1週：ガイダンス</b><br>授業の内容・目標とスケジュール、地域活動の内容について説明します。   | 課題提示                        |
| <b>第2週：チーム作り</b><br>チーム分け、アイスブレイクを通して、チーム作りを行います。次週以降の地域での活動スケジュールについての詳細を説明します。                                      |                             |
| <b>第3週：地域の声を聴く・見る(日程に注意して下さい)</b><br>活動地域に出向いて、地域の方からその地域の歴史や特徴についての話を聞きます。   | チームポートフォリオ作成                |
| <b>第4週：地域交流活動(日程に注意して下さい)</b><br>活動地域において、地域の方と共に、地域の維持活動にかんする作業を実施いたします。<br>この時間は、グループに分かれて諸注意を受けながら活動し、現地の方のお話を聴きます | チームポートフォリオ作成                |
| <b>第5週：フィールドワーク(日程に注意して下さい)</b><br>地域の方とのまち歩きをとおして、地域の魅力の再発見につながるワークショップを実施いたします。<br>ワークショップをとおして、地域の現状について鑑みます。      | チームポートフォリオ作成                |
| <b>第6週：アイデア創出(1)</b><br>第5週までにおいて体験・経験した地域の状況をふまえて、地域の課題解決に向けてのアイデアを考えていきます。<br>(情報共有、アイデア出し、アイデア決定、チーム課題共有)          | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第7週：アイデア創出(2)</b><br>第6週の内容を引き続き実施します。<br>(ストーリーボード作成、アイデアスケッチ)  | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第8週：アイデア創出(3)</b><br>第7週の内容を引き続き実施し、チーム最終目標を決定します。<br>(タスク決定、役割分担、スケジュール作成)  | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第9週：プロトタイピング(1)</b><br>第8週で作成したスケジュールをもとに、チーム作業に取りかかる。   | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第10週：プロトタイピング(2)</b><br>前週に引き続き、チーム作業に取りかかる。   | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第11週：プロトタイピング(3)</b><br>前週に引き続き、チーム作業に取りかかる。   | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第12週：プロトタイピング(4)</b><br>前週に引き続き、チーム作業に取りかかり、プロトタイピングの作業を終える。   | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第13週：動作検証/プレゼン作成</b><br>制作物の動作検証と報告会にむけてのプレゼンテーションを作成し、発表練習を行う。  | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第14週：成果報告会:地域での発表</b><br>各チームのアイデアとそのプロトタイプなど、課題内容に応じた報告を各チーム毎に行う。   | チームポートフォリオ作成<br>個人ポートフォリオ作成 |
| <b>第15週：振り返り</b>  |                             |

|  |                               |                 |
|--|-------------------------------|-----------------|
| プロジェクトをおとして、学んだことについての振り返りをするこで、次学年以降の活動につなげる。 |                               | プロジェクト振り返りシート作成 |
| 第16週：予備日                                       |                               |                 |
| 授業の運営方法  | (1)授業の形式                      | 「演習等形式」         |
|  | (2)複数担当の場合の方式                 | 「共同担当方式」        |
|  | (3)アクティブ・ラーニング                | 「アクティブ・ラーニング科目」 |
| 地域志向科目   | カテゴリー II：地域での体験交流活動を教育内容に含む科目 |                 |
| 備考   |                               |                 |

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| <b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b> |  |
| <b>【関心・意欲・態度】</b>           | 自ら積極的に情報収集等を行いかつ、チームの活動に主体他機に参加することが出来る。                     |
| <b>【知識・理解】</b>              | チームの目標達成のために自ら情報収集等を行い、その知識等を他のメンバーが理解出来るように説明することが出来る       |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>    | 自ら調べたことを仲間と共有し、目的にむけた行動を取ることが出来る。チームの活動を活発にするための行動を取ることが出来る。 |
| <b>【思考・判断・創造】</b>           | 目的に応じた情報の収集・発見を行い、創造性を発揮しながら、チーム活動がよりよい方向に向かわずることが出来る。       |

|  |                 |               |              |      |
|--|-----------------|---------------|--------------|------|
| <b>○成績評価基準(合計100点)</b>   |                 |               | 合計欄          | 100点 |
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点  | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) |      |
| <b>【関心・意欲・態度】</b><br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。                         |                 | 15点           | 30点          |      |
| <b>【知識・理解】</b><br>※「専門能力(知識の獲得)」を含む。                             |                 | 10点           |              |      |
| <b>【技能・表現・コミュニケーション】</b><br>※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 |                 | 20点           |              |      |
| <b>【思考・判断・創造】</b><br>※「考え抜く力」を含む。                                |                 | 25点           |              |      |

|  |
|--|
| <b>(「人間力」について)</b>   |
| ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。 |

|   |                    |
|---|--------------------|
| <b>○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安</b> |                    |
| 成績評価方法                                    | 評価の実施方法と達成水準の目安    |
| レポート・作品等(提出物)                             | 提出された内容を総合的に評価します。 |

発表・その他  
(無形成果)

実習の目的と内容をよく理解して、他のメンバーと協力して意欲的に取り組んだかを評価します。